研究会 1960. 4. 26. (1)

(IMANISI, UMESAO, AZUMA, UEYAMA) IWATA, TANI, SIMURA, WAZAKI, ITANI.)

Anthropoid の社会構造. (ITANI.)

§1. 私の分担は Monkey の社会から Ape へ, Ape から Man Ape (ここで hunting line をこえる) へのところである.

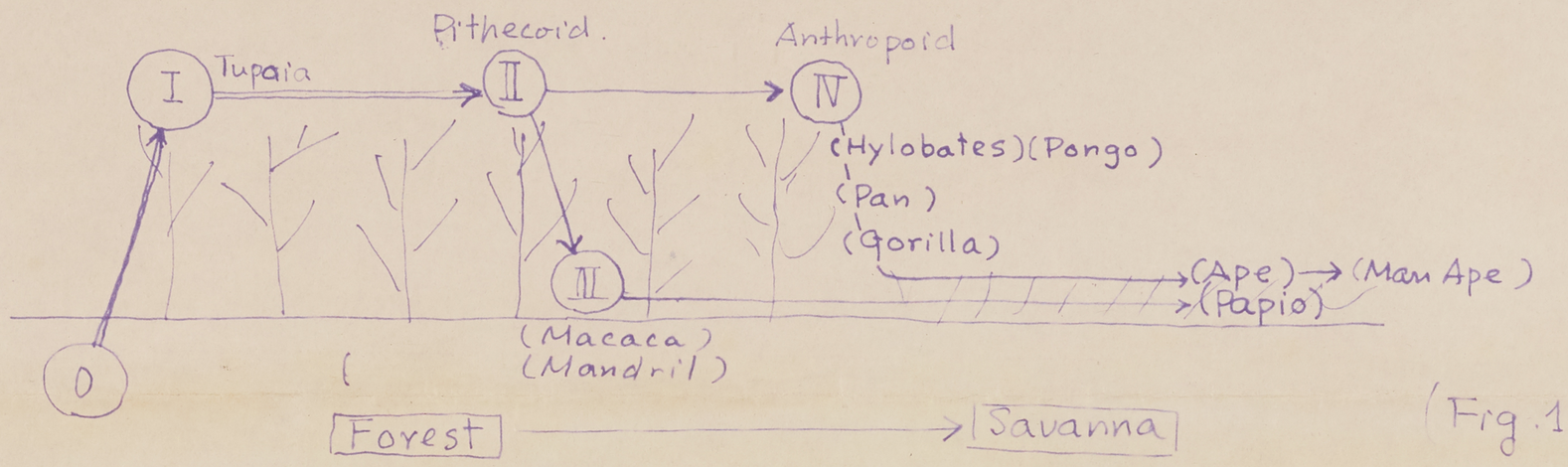
monkey. ape man ape ape man man.	—— hunting line ——	group formation family form. 家族集団 → band form.

このように. group がどうして family になり, family が band にまでなるか. 以下 十数ケの Anthropoid の data から のべてみたい.

§.2.1. Primate のなりたち. = Tupaia. (I).

8000年 ~ 6000年前に 地上の モグラの類が 樹上生活をはじめた. = Tupaia. ホネヅミ. これが primate のはじまり.

lower primate はすべて 樹上 (arboreal) 生活である. (I)



(Fig. 1)

§.2.2. Pithecoid (Arboreal) (II)

4000年 ~ 3500年前. Pithecoid が生れた. 樹上生活. グループができる. この originl type は Howling Monkey (カーペンター). (注: ニホンザル のグループは おきまりしたものだ.) オレは 数匹の♂, それよりやや多い♀. その こどもたち からなる 遊群で. status など 分化. territory はチャントあった.

Pithecoid (terestrial) の分化 (III).

この中 Macaca, Mandril などは 地上生活をおぼえ. その中に Savanna にでるもの (Papio = baboon) できるものもあらわれた.

この間に オレは 大きくなり. 社会組織も ここまでにがっちりくまれてきた.

こいつら (II・III) は group の段階で arboreal から terestrial へ移行したものとする.

これまでの 学者は. population はふえて, まとまりは Ape に近くなって. ニホンザルのようなものから family が crystalize したと考えてきたが. そうではなく. Ape への移行は. Pithecoid から 1つ前の ふるまいをとりたい.

§.2.3. Arboreal Ser. → Anthropoid への移行 (IV).

Anthropoid には Hylobates (完全樹上). Pongo (主に). Pan (樹上3: 地上1) Gorilla (樹上1: 地上9) があるが. すべて free な 生活.

これが どうして savanna へでて 二足歩行をし. hunting line をこえるようになるかは 重要なもんだいである.

Kyoto University

1960.4.26. (2.)

§3. Anthropoid の社会構造

(I) Hylobates lar. = シロテナガザル (ガーペンター; 東南アジア)

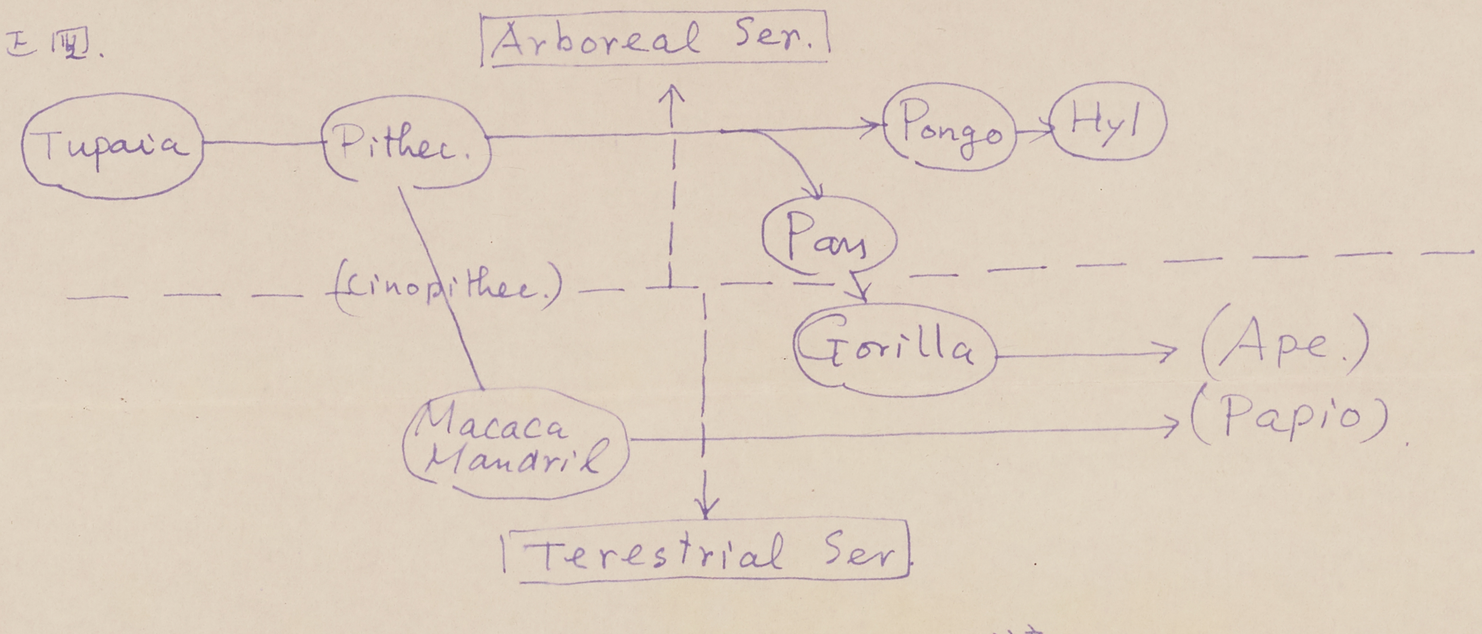
21 family の記載例. —(1♂ 1♀. 19例
2例 (♂2♀1; ♂1.♀2)

family 内に territoriality があり. たがいに接触をさけている.
Hylobates の 1♂1♀ はどうして得られているか.
1♂ + 1♀ + 1♂♀ + b. の family について, 永見したj がよへで. それが重要ない.
family (1♂1♀) をつくる.

いまのところ family 単位のカンカツはない.
(1900年秋初. Hyl. hoolock (ビルマ・アッサム) の大ヨムムレの記サイあり.)

disc. 1ma. — Theoretical にはどうがよいか?
1t. — 1♂1♀ 制は arboreal ser. のゆきづまり (特殊化) であろう。
1ma. — たしかにそうだ.
大きい species のすべての individual 単位の生活 → group ができ, 持続的単位となる
→ family にまで解消され, 持続性がなくなる.
このるりのおわりが Hylobates lar で, ここからは人間の organization
はでてこない.
このゆきづまりの手前に terestrial ser. の移行があると考える方が妥当.

Fig. 2. 修正図.

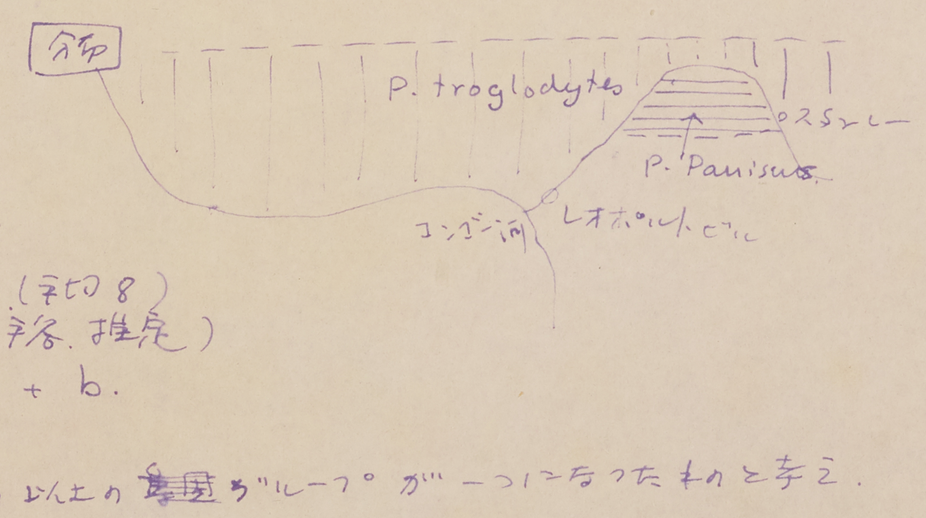


㊟. 1♂1♀ は Arboreal Ser. のゆきづまりであることに注意せよ.

(2) Hylobates; Symphalangus ■ フクロテナガザル.
カーペンター の おもちいカンサツ. 樹上. 1♂1♀. Population 小.

(3) Pongo. = オラン・ウータン.
カーペンター. 完全に樹上. 1♂ + 2♀ + j の群あり.
古屋・元谷の発掘 (1956). — 相当な population が想像できる.
やはり, Arboreal Ser. のゆきづまりだ.

(4) — 以下 Anthropoid (Terestrial) —
Pan paniscus ピグミー、チンパンジー
P. troglodytes チンパンジー.



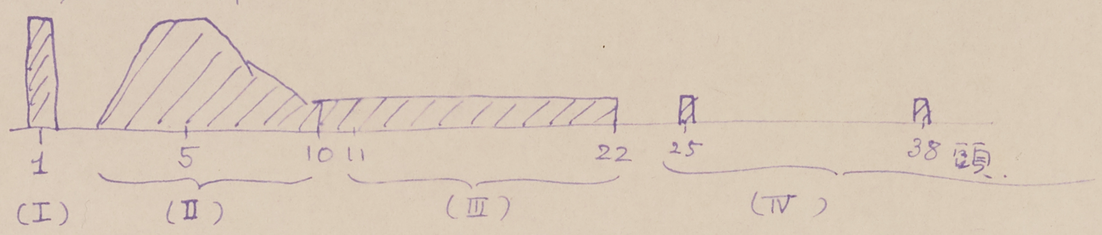
ピグミー、チンパンジーは全くわかっていないが.
チンパンジーの primitive な形だろう.

Pan troglodytes: 群の大きさ 4~14頭 (平均8)
family とはいえない. その構成は (仔各. 推定)
1♂ + (1~2)♀ + j + i + b.
2♂ の例もある.
2大きい群れ (16, 18. 3例 とも) は二つ以上の 集団 グループ が一つになったものと考える.
これは 家族集団 をつくると考える.

Kyoto University

1960. 4. 26.

§3. (5) Gorilla.
訳すイエれた 集団の Population の分布図. (52例について)



① Solitary ; すべてる. 1ぴきの♀の集団からはみでたもの. ~~(1例)~~
② 小型の family : Pan ににたもの. 1♂ + (1~3)♀ + i (1~4). (17例)
③ 大型の family : 11~20頭 Silber back をもつもの 1例. (9例).
1♂ + (1~2)♂ + (3~9)♀ + (4~12) i (or j)
④. 家族集団と考えられるもの : 22頭以上.
22頭 : 5♂♂.
25〃 : 4♂♂
これはもう ②.③ の family ではない. ① Solitary が 大きくなって生活を共にすると考えるが ② inter family relation が 親和的 であると考えるがある.
③ なうば 家族集団. → band への形であるが, その持続性は不明.

— 以上. ITANI のはなし ————————.

— 以下 discussion の要点.

① Gorilla の段階は. 「大家族」でなく「band」への傾向をもつ.

Ima ; これまでのカンサツ例がふえて. Gorilla は 「band」を考えるれば ニホンムレは大家族といわねばならないし. 「大家族」でないなら. すでに「band」をつくっているといえるだ.
(注) ミケノの例 : 11 family 190頭.

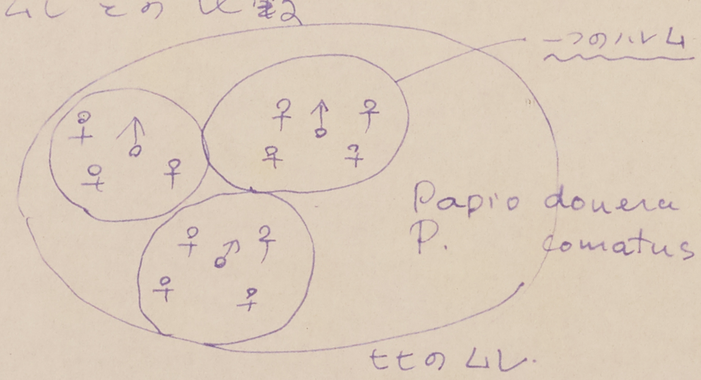
It. : これは matrilineal をモバンとした 大家族で, neighborhood relationship をもつ可能性がある.
これ Gorilla はすでに band をつくる段階にきていながら forest がうでるいために. band になれないでいる.

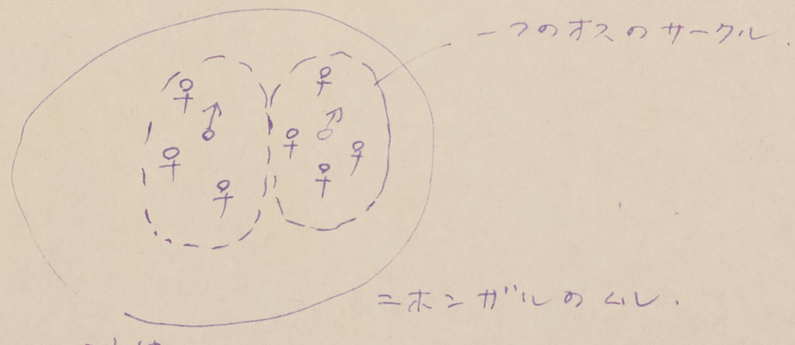
Uy : 人間の band 形成が hunting line であるなら. Gorilla の band にはなをもってきたらよいか. band の function はなか?

It ; それは territoriality などがその一つだろう。
Gorilla は完全な Vegetarian で. この環境では hunting line にそることはない. それにしても. すでに Anthropoid の forest → savanna の方向をたどるが. はまだ考えられていない.

② ~~Hierarchy of the~~ Papio のムレについての疑問.

It. Ima ; 草原にでた (Papio) ヒヒ. はハレム をつくる (Zuckermann) という事 と. ニホンザルの ムレとの比較





ニホンザルの場合には ある♂ に一つのサークルがあるが. これは sex の関係を現定しない open なもの であることが分かっている. (♂については くらしの♂ と sexの♀ が別々).
このような関係が ccの場合にあるのかないのかは Zuckermann は全くふれていない 形のみの指摘だから. Papio は ハレムをつくるということは ~~ニホンザル~~ 十分考えとである.

③ 雑. (i) Pure Vegetalian として 人間までつづいてる可能性はあるか.
(ii) サルの決食の例. (クズの食い)
(iii) hunting line の意義 — 縦線 — 立と息まとの共仂 — 父系へ.
(iv) Pritive Man の生活. (v) 直立歩行 への process のギンミ 等

以上.

Kyoto University